

No.	名称	解説
1	平城宮跡 (世界遺産 古都奈良の文化財)	平城京は、大小の道路で基盤目状に整然と区画された条坊からなる都市である。この条坊区割の基準となつたのが、京城正門の羅城門と宮城正門の朱雀門を結ぶ今日の中心道路であり、京の正面大路として都城の威容を示すために特別に広く作られ、しばしば儀式の場にもなっていた。大路幅は、路肩幅で71m、東西両側溝の中心間で74m、両側溝外側の築地の中心間で約89mである。
2	平城京朱雀大路跡 (国指定文化財史跡)	この像は左手に宝珠をもち、右手に錫杖をもちない古式の姿の地藏を厚肉に刻んでいる。光背に文永二乙丑八月日という刻銘があり、文永2年(1265)につくられたことがわかる。
3	石造地藏菩薩立像 (奈良市指定文化財彫刻)	市内には石造の地藏菩薩像が多数あるが、本像は制作年が明らかで彫技もすぐれており、本市における鎌倉時代の代表的な石仏のひとつである。
4	唐招提寺 (世界遺産 古都奈良の文化財)	境内には現在、天平建築中最大雄偉の金堂、平城宮朝集殿が施入移築された講堂、僧坊東室の後身とされる礼堂、経楼の後身とされる鼓樓、創立当時から校倉二棟など、概ね奈良時代の伽藍様相を知ることができる。
5	薬師寺 (世界遺産 古都奈良の文化財)	680年に天武天皇が藤原京で創建し、平城遷都に伴い養老2年(718)に現在地に移された。金堂、講堂などを中心に回廊内に東塔・西塔を配する構成は独特のもので、薬師寺式伽藍配置と呼ばれている。この華麗な伽藍も数度の火災にあって次々と焼失し、創建当時の姿を残すのは東塔のみであるが、昭和51年(1976)には金堂が、昭和56(1981)には西塔が創建当時の姿に復興された。
6	旧田中家住宅 (奈良市指定文化財建造物)	法運づくり民家のうち最古のものともみられる。土間上・棟通りの桁行つなぎ梁に細い縄を巻きつけてあり、毎年正月ごとに巻いたと伝える。18世紀末～19世紀初めの建設と考えられるものである。もとは近鉄奈良駅の北方の法運町にあったが、平成2年(1990)に現在地に移築された。
7	春日神社	本殿は桁行1.52m、梁行1.21m、春日造り、祝詞舎の傍らに手水舎がある。この神社は雨請いに霊験があるので干害時にはよく雨請いが行なわれた。
8	本照寺	もとは尼寺であった。門は秋篠あたりから薬師寺を移したものである。本堂には本尊阿彌陀如来像を中心に、親鸞聖人・蓮如上人・七高僧・聖徳太子の御影像がまつてある。
9	北野天満神社	神社は、阪奈道路の開設によって現位置に移されたが、以前は少し南にあった。境内社は大神社で大日靈貴命をまつ。2月25日の天神講、3月1日座、秋祭りの宵宮座などが行なわれる。
10	廣峰神社 (広峰神社)	境内社は、右に若宮神社、左に八王子神社がある。拜殿は土間。
11	常楽寺	もとは天台宗であったが、江戸時代初めごろに真宗となり、以来住職の交代が相ついで行なわれた。本堂内陣には阿彌陀如来立像を中心に、右に親鸞聖人尊像・方便法身像、左に蓮如上人像・聖徳太子像・七高僧像などをまつ。
12	大將軍神社	もと齋音寺村から移す。境内社は、大神社(大日靈貴命)で、本殿左手にある。
13	横領天神社 (天神社)	神社は阪奈国道に接する大宮通りにあり、新しく神社名・祭神を刻んだ大きい石柱が建てられた。



【朱雀門】

No.	名称	解説
14	皇大神宮 (皇大神社)	神社の所在地はもとの南新村で、慶長11年(1606)に平松村から分かれた。その際、平松村明神大社宮伊勢天照皇太神宮を勧請した。境内社は天神社で天照大神を祭る。
15	光明寺	本堂は安政年間の再建、内陣仏壇に本尊阿彌陀如来立像、右に親鸞聖人画像、左に蓮如上人画像・七高僧画像をまつ。半鐘に、文政七年南新村光明寺とあるから、このころ再興され寺観が整えられた。しかし過去帳には、宝暦・明和以降の名が見えることから、寺はかなり古い来歴をもつ。
16	天神社	このあたりは興福院とか弘文院跡と伝えていて、その境内にあったという大神社は天照皇大神をまつていた。
17	蓮性寺	本堂内陣には本尊阿彌陀如来像を安置。寛永年間(1624～43)に火災にあい堂宇が焼失したが、貞享5年(1688)に再建した。
18	天満神社	旧齋音寺村の氏神として古くから鎮座、雨請いの神社として知られている。境内社は若宮社で、天忍雲根命をまつる春日若宮である。
19	奈良市慰霊塔公苑	西ノ京、唐招提寺の東側の景勝の地に殉国英霊供養塔を建立し、明治時代の西南の役から第二次世界大戦の間において従軍し、亡くなられた戦没者の冥福を祈っている。
20	柏木天満宮 (天満神社)	本社は菅原神社とも呼んでいた。相殿は右に春日神社、左に恵比須神社を配する。
21	法輪院	庫裏はかなり大きい建物であるが、明和年中に当院真遍法印が再建したものである。細部は相当後世の改修をつけている。創立の年月は詳らかでない。
22	福天満神社	境内社は春日神社で、天兒屋根命をまつ。本殿の北の茂みの中に古い社殿が一棟ある。これはもと近くの堤防にあった宿院の宮古跡にまつられていたが、秋篠川の改修によって取り除かれた社殿を移したものである。
23	大通寺	門の右手に地藏堂があって石地藏をまつている。その背後の寺地内に室町末から江戸時代にかけての古碑や石塔の断片が三十基ほどある。本堂は慶応2年(1866)の造営。
24	大乘院 (旧大乘院建物)	旧興福寺大乘院にあった建物を木本源吉邸に移し離れ座敷としていたのを、後に薬師寺境内地に移し、仏教研究所として活用している。
25	皆天満宮	本殿は三間社・切妻造・銅板葺。正面は三間板扉、背面は柱間二間になっている。舟肘木をつけた簡素な建物で、江戸時代前期とみられている。
26	孫太郎稲荷神社	もと姫路にあったものを寛政のころこの休岡の地に移した。
27	薬師寺八幡院 (八幡院)	薬師寺八幡宮のすぐ北にある。玄関・庫裏・書院・本堂・土蔵などがある。その沿革については明らかでない。
28	薬師寺休丘八幡宮	薬師寺は寛平年中(889～897)に、別当の栄紹大法師が寺の鎮守として、この八幡宮の祭神である八幡神・神功皇后・仲津姫命を勧請した。現在の社殿は、幾度かの天災・人災による破壊・焼失後、慶長8年(1603)に豊臣秀頼によって新造されたものである。

No.	名称	解説
1	葉本家住宅 (登録有形文化財)	明治初期の建築と推定されている。主屋は南側に通り土間をとり、北側に六間の居室をとっている。屋根は檜瓦葺で、むくりをつけている。奈良の指物師として有名な川崎幽玄の父、川崎長七が建築に携わり、建具、欄間、茶室を創作した。葉平格子、坪庭の垂木、入隅にまわる雨戸などにその特徴がみられる。
2	木造十一面観音立像 (市指定文化財)	観音寺町の八幡神社の境内の一画にある観音堂に安置されているこの木像は、セندانと思われる一材から彫りだしたもので、像高は約102センチ。平安時代後期、12世紀の作と考えられている。十一面の化仏、左手部分などは後の時代に補われている。また、表面の切金文様も後に施されたものである。
3	稗田環濠及び集落 (市指定史跡)	稗田は集落の四周に完全に濠をめぐるした環濠集落である。奈良盆地に分布する170余りの環濠集落の多くが平安末期から室町にかけての中世に築造されていることから、稗田の環濠も中世の戦乱期に、外敵からの防御や周辺耕地の用水確保を目的として造られたものとみられている。
4	若槻環濠 (市指定史跡)	文正元年(1466)頃から文禄4年(1595)頃にかけて環濠がつくられ現在の姿となった。若槻環濠は、若槻氏による現在の環濠は、若槻氏によるものである。



12	また賣太神社	創建は明らかではないが、延喜式内の古社。祭神の稗田阿礼は、天武天皇の勅により、『帝紀』『旧辞』を暗誦した人として知られる。境内に、重話作家で俳人であった巖谷小波の句碑がある。
13	道標	天保十巳亥年十二月の文字がある。
14	稗田遺跡	下ツ道にかかる橋が見つかった。出土遺物は、祭祀関係のもの(墨書人面土器、土馬、小形の土電、斎串など)、日用品など多種多量にのぼっている。
15	番条環濠	中世、番条氏居館跡があり、南堀・北城などの小字が残る。
16	熊野神社	祭神素盞鳴命、誉田別命。
17	中谷酒造	菩提仙川の川上流にある清酒発祥の地と呼ばれる正磨寺の全盛期に作られた備前焼の酒壺が伝わる。
18	阿彌陀院と祠	真言宗。本尊は大日如来像。元和6年(1620)法印秀英の中興。阿彌陀院大般若波羅密多経は、昭和53年市指定文化財となった。本経は、写経当初の識語はないが、享永6年(1434)、天文22年(1553)、宝永元年(1704)等、数度にわたる修補時の識語により、秋篠寺旧蔵で、鎌倉中期までできたかと推定できる。